

The Japan Association for the Promotion of Arts (JAPA)

## 公益財団法人美術文化振興協会 平成 29 年度 事業報告

平成 29 年度の事業報告については下記の通りです。決算は別紙をご参照ください。

記

### I : 「美術文化に関する国際交流」事業

#### [1] 《ジャパニーズ・アート・プログラム(Japanese Art Program)》

ライデン大学との共同事業である「ジャパニーズ・アート・プログラム」に関し、平成 17 年（2005 年）より派遣事業を実施してきました。平成 29 年（2017 年）度は第 11 回目の講座「尺八」を実施し、この度の講師は、日本文化にも精通し、尺八及びフルート奏者としても著名なハリー・シュタレフェルト教授（Professor Harrie STARREVERD）にお務め頂きました。日本文化に対する理解促進のために、尺八を通して、歴史・理論・実践による三位一体の授業を実施して頂きました。

#### <開催概要>

##### [1] 第 11 回 ジャパニーズ・アート・プログラム「尺八」

共催：公益財団法人美術文化振興協会／ライデン大学

派遣期間：平成 29 年（2017 年）10 月 17 日から 11 月 16 日まで

派遣先：ライデン大学／オランダ

ライデン大学のご担当教授：イフォ・スミッツ教授

講師：ハリー・シュタレフェルト教授（尺八奏者）

参加者：ライデン大学 学生（9 名）

内容：「尺八」ライデン大学学生対象授業（8 回開講）

- （授業の概要）
- ・プラスチックの筒から自分用の尺八を製作する
  - ・雅楽から伝統音楽の歴史に関する講義
  - ・尺八の歴史と座禅の役割についての解説
  - ・尺八の記譜法の解説 ・尺八を吹く技術の練習体験



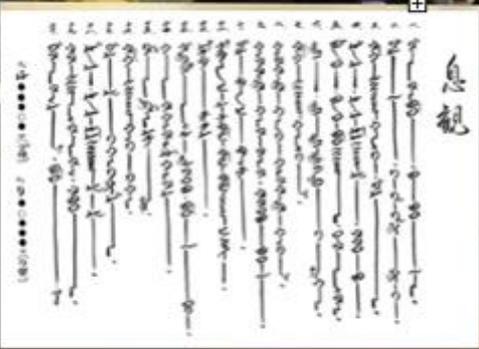
Harrie Starreveld, Shakuhachi  
Prof. Ivo Smits, University of Leiden



The Japan Association  
for the Promotion of Arts  
"Artist in Residence Programm"



Typ hier only tekst in te gebruiken



(ジャパニーズ・アート・プログラム「尺八」の授業より)

## [2] 日本アセアン文化交流事業の発足準備

当財団の発足は、昭和52年（1977年）夏に福田赳夫総理大臣がアセアン諸国を歴訪し、最終訪問地のマニラで「心と心の触れあい」に根ざす東南アジア諸国の真の友人としての関係を打ち出した歴史的なスピーチ「福田ドクトリン」に共鳴したことに端を発しています。当財団は、アセアン諸国との人間、文化、芸術の交流を通じた関係強化を目指し発足しました。この経緯を踏まえ、アセアン諸国との文化交流事業の実現に向けて、平成16年（2004年）にはタイへの調査団が派遣されました。平成26年（2014年）度から有志によるリトリート会合なども含め意見交換の機会を設け、その可能性について議論を進めました。平成27年（2015年）度には当プロジェクトの推進にあたり、小和田恆名誉会長はじめ近藤誠一会長と連携し、福田康夫元総理大臣やバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使とのご面会が実現しました。また、東京藝術大学の研究プログラムと連携しタイ訪問が実現し、在タイ日本国大使館 佐渡島志郎特命全権大使とのご面会をはじめ、Queen Sirikit Institute、国際交流基金バンコク日本文化センター、シラパコン大学の訪問などを行いました。平成28年（2016年）度は、タイとの計画を打診していく予定としておりましたが、タイの国王崩御の訃報にふれ、時期を兼ね合わせながらコンタクトを行ってまいりました。

平成29年（2017年）度は、タイ王国の Queen Sirikit Institute からタイ王国元日本留学生協会のプレジデントであるブッサディー・ナワウィチット（Bhusdee Navavichit）女史の来日を受け、東京にてプロジェクトの協議を行いました。この協議を経て、当プロジェクトの実施の可能性についてタイ王室で検討され、Queen Sirikit Institute の海外との交流活動に関しては新国王のご許可の下で行われることになった旨、ご報告頂きました。その後、タイ及び日本の国際関係の機関等への報告と協力の呼びかけを進めてまいりました。駐日タイ王国大使公邸にて、バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使と今後の協力関係についてもご協議させて頂きました。また、平成30年（2018年）度は準備期間と位置づけ、平成31年（2019年）度以降の実現を視野にプロジェクトの具体化を推進しています。



（バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使とのご協議を大使公邸にて。  
JAPA より近藤誠一会長、大津英敏理事長、関出常務理事、加賀谷事務局長）

## Ⅱ：「美術文化に関する研究会・講演会等の開催」事業

### [1] 《ジャパニーズ・アート・セミナー (Japanese Art Seminar)》

ジャパニーズ・アート・プログラムの機会と併せ、学外に公開する「ジャパニーズ・アート・セミナー」『尺八』を、ハリー・シュタレフェルト教授に講師をお務め頂き実施しました。第6回目となる公開セミナーであり、ライデンにある日本博物館シーボルト・ハウスで開催しました。

#### <開催概要>

#### 【1】 第6回 ジャパニーズ・アート・セミナー「尺八」(一般参加可能な公開セミナー)

共催：公益財団法人美術文化振興協会／ライデン大学

日時：平成29年(2017年)10月29日(日) 15:30～17:00

会場・協力：日本博物館シーボルトハウス (Rapenburg 19, Leiden)

ライデン大学のご担当教授：イフォ・スミッツ教授

講師：ハリー・シュタレフェルト教授(尺八奏者)

参加者：ライデン大学の学生、関係者及び学外からの聴講者(30名)

内容：尺八に関する講義と演奏実演

- ・尺八の歴史と座禅の役割、記譜法等の講義と実演



(ハリー・シュタレフェルト教授)



(シーボルトハウスご所蔵品の楽器)

### Ⅲ：「美術文化に関する展覧会の開催」事業

#### [1] ジャパニーズ・アート・プログラム 作品発表

「ジャパニーズ・アート・プログラム」第11回『尺八』の授業でハリー・シュタレフェルト教授の指導のもとで学生が尺八演奏に取り組み、この度は授業内での発表を行いました。

実習期間：平成29年（2017年）10月17日から11月16日まで

場所：ライデン大学／オランダ

#### [2] 顕彰事業受賞者の展覧会（計画）

「美術文化に関する優れた業績のある者の顕彰」事業と関連し、その受賞者の展覧会開催に関して計画を進め、実施候補の会場との調整などを進行していきました。

### Ⅳ：「美術文化に関する優れた業績のある者の顕彰」事業

#### [1] 新顕彰事業 創設準備

平成26年（2014年）度より、新たな顕彰事業の創設にあたり、当財団の使命を掘り下げながら、有志によるリトリート会合なども含め多数の会合を持ち、顕彰事業の名称はじめその内容について議論してきました。平成29年（2017年）度は共催企業、開催会場等との交渉などにも当たって参りました。内容の充実を図るため、引き続き準備を進めていくこととしています。

### Ⅴ：その他この法人の目的を達成するために必要な事業

#### [1] 財源確保のための活動

当財団の事業の財源確保に関し、特に、今後の「ジャパニーズ・アート・プログラム」の資金を得るため、小和田恆名誉会長のご尽力を頂き、その確保に努めました。

#### [2] 内閣府による立入検査を経ての改善活動

平成29年（2017年）9月13日に、内閣府より当財団事務局に来所頂き、立入検査を実施して頂きました。この立入検査は、この実施により、より良い運営に役立てて頂くものであるとの前提をお示し頂き、下記の総まとめをして頂きました。

- ・当財団の事業・法人運営に関して、不正なく運営されている。
- ・今後とも公益性の推進に努めてほしい。

その上で、事業・法人運営、会計等の改善点をお教え頂き、各事項について改善を進めていきました。

特に、「財源確保の為のメモ出し」の提出要請を受け、内閣府へ提出いたしました。引き続き、財源確保に努めていくことが求められています。

以上

## <附属明細書の作成について>

上記の事業報告に関して、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条 第 3 項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。

平成 30 年 6 月 1 日

公益財団法人 美術文化振興協会